

特集

「看護過程」教育の
現状とこれから

今こそ考えるべき、「看護過程」の教え方・考え方

池西静江

看護過程はメタボリック化している？「看護過程偏重」に
よって損なわれるもの 佐藤尚治看護過程の記録に頼らない、看護の実践的知識を深める
教育 糸賀暢子患者の全体像をつかみ、学生同士で学びを深める「看護
過程」 デジタルストーリーとワークショップ 村中陽子

【連載】

考える力を育てるシンキングツールの活用・3 黒上晴夫

笑いの伝道師 W マコトのコミュニケーション革命！・6 W マコト

臨床教育学 わからないこととの出会い・6 遠藤野ゆり

看図アプローチへの招待・6 鹿内信善／徳永基与子ほか

宮子あずさのエキサイティング Writing・18 宮子あずさ

“医療安全力”を育むリスクアセスメントトレーニング・26

斉藤奈緒美／石川雅彦

編集後記

●医療、看護において「安全」が優先されるのは当然のことです。けれども、QOLに代表されるように、その行為の質を考えると、「安楽」「快適」もないがしろにはできません。それらを含めて「気持ちよさ」と考えたうえで、そのための看護技術について研究してきたのが、今回の特集の著者である縄先生のグループです。実際のところ、1号で特集した「安楽」と今回取り上げた「気持ちよさ」は、微妙に違いますが。後者のほうが、個人の感覚に左右される度合いが強いかもしれませんが。だからこそ、「患者の個性」を考える際にはより不可欠と考えます。●技術指導においては、スタンダードを覚えさせることから入らざるを得ない側面は否定できませんが、個別の感覚の違いに配慮するには、「気持ちいい」という視点は効果的だと考えています。ぜひ意識して取り組んでみてください。……大野

●大学教育研究フォーラムの取材で、昔いた京都に行きました。自分がいたころと比べて、男女問わず若い方の着物が異様に多く、老舗の呉服屋さんに話を聞いてみると、どうやら、中国・韓国の旅行者へのレンタル和服がツアーにも組み込まれ、すごく流行っていて、逆に少し値段の張る舞子さん体験は閑古鳥が飛んでいるとのこと。どうしても廉価＆きっちり着こなしていない和装姿が溢れてしまうわけで、呉服屋さんはそんな現状にびりびり怒っていました。外部に少し偏狭な面も感じましたが、もちろん根本は着物文化を愛するがゆえ。バランスが難しいですね。

●学会では、アクティブラーニングの抱えるジレンマ、自発的であることを強制してしまうことについてなど、詳しくお話をうかがいました。何かを教えたいという気持ちも、大事に思っているから。だからこそバランスがなければ、きつと裏腹なものになってしまう可能性を感じます。……番匠

◎編集室ツイッター

<http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

看護教育 第57巻 第5号 2016年5月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2016, Printed in Japan

(1部) 定価：本体1,500円＋税

2016年・年間購読料(増大号を含む12冊)：冊子版15,540円、冊子＋電子版／個人18,540円、冊子＋電子版／共有20,880円、電子版／個人15,540円、電子版／共有17,880円(いずれも＋税、送料弊社負担)

発行：株式会社医学書院 代表者：金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL：03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL：03-3817-5776 メールアドレス：kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当：番匠・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY 出版者著作権管理機構 委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/16/紙：¥500/電子：¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複製につき紙は500円、電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は、株式会社医学書院の登録商標です。

Vol.57 No.4

2016 年 4 月
特集

あなたの「見方」に現象学を

現象学の創始者フッサールは、「事象そのものへ」というテーゼを掲げました。これは何か物事をとらえる際、「こうあるものだ」「こうしているはずだ」という先入見を排し、そこで起きているもの自体を追求しようという立場です。哲学の一分野でし、ちょっと難解ですね。けれども、決して看護教育と縁遠いものではありません。

看護も教育も、対象である患者や学生に全人的かわりが求められます。当然、エビデンスにもとづいた科学的、論理的のアプローチが重視されますが、決してそれだけではないというのは、皆さんはご承知でしょう。「病」や「学び」は、数値化されない固有の経験や感情と深く結びついているからです。かのベナールも、臨床実践の意味を探るうえで、現象学的に人間をとらえるところから、その理論を構築しています。

しかし人はつい、「自分の見方」で相手のことも評価し、判断しています。学生や患者の「経験」を理解するためには、「あなたの見方」を一度取り外す必要がある、と現象学は伝えます。

今回の特集では、現象学を教える立場から、また現象学を学んだ立場から、現場の先生方に教育実践と現象学のつながりを執筆していただきました。現象学を皆さんの新たな味方として、取り入れていただくヒントになればと願っています。

- 現象学はあなたにもきっとおもしろい！
——教務主任養成講習会を通して……
……榎原哲也
- 実習指導のなかでの教員の経験を振り返る——現象学の視点から……高橋多佳子
- 現象学的に読む学生の眼差し、教員の学び——看護実習での「経験」をめぐる……前川幸子
- 私を揺り動かし、新たな意味に気づいていく——看護教員の語り、現象学的分析の試み……西村ユミ



Vol.57 No.3

2016 年 3 月
特集

カリキュラムを「拡張」しよう！

看護教育においては、国家試験合格という1つの目標があるため、他の教育に比べて自由なカリキュラム作成の余地が多くありません。若年人口の減少と教育機関の増加という2つの状況から鑑みても、本来であれば、学校、大学の特徴を強く打ち出し、独自のカリキュラムを編成したいところですが、なかなかそうはいかないのが現状でしょう。そこで、発想転換の勧めです。カリキュラムはある程度固められて、そこに自由裁量の入る余地が少ないのなら、カリキュラム外(extra-curricular)を活用することです。ただ、単純に課外活動を増やせばいいということではありません。卒業単位には含まれない教育的な準正課教育(co-curricular)に教職員が積極的に関与し、カリキュラムを「拡張」することです。今まで行っていた活動もカリキュラムと結びつけることによって、教育効果を上げ、その教育機関に望ましい学生の成長が期待できるでしょう。カリキュラム外はカリキュラムと無関係というわけではありません。その点を外しさえしなければ、新たに何かを始めずとも、拡張はできるはずです。

- 準正課教育を活かして、カリキュラムを広くとらえよう……山田剛史
- カリキュラム「外」の活動をカリキュラムと結びつけるために……近藤麻理
- 批判的思考態度を育て、「平和」を問う直す研修旅行……片岡和江
- 臨床を視野に入れた接遇(おもてなし)教育……高塚由香里
- 時間外に行う委員会活動で育つ学生の力……佐々木美奈子



[2016年2月号(Vol.57 No.2)]

看護観の伝承

[2015年11月号(Vol.56 No.11)]

学生の答え、ちゃんと待てますか 今こそ知りたいファシリテーションの心構え

[2016年1月号(Vol.57 No.1)]

形・型・可で技術教育の「安楽」を考えよう！

[2015年10月号(Vol.56 No.10)]

あらためて How to ロールプレイ！

[2015年12月号(Vol.56 No.12)]

グラフィック・シラバスとカリキュラム・マップ 授業とカリキュラムを「見える化」しよう！

[2015年9月号(Vol.56 No.9)]

「看護研究」で実践力を鍛える

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2014 年 3 月号(Vol. 55, No. 3)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, http://www.toabook.com/)よりお問い合わせください。
- 2014 年 4 月号(Vol. 55, No. 4)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)にお問い合わせください。